

「長期入院や福祉施設の子もたちが笑顔になるあそびワークショップ体験」

報告書



国立青少年教育振興機構
 「子どもゆめ基金助成活動」

国立病院機構 下志津病院のみなさんへ
 「長期入院や福祉施設の子もたちが笑顔になるあそびワークショップ体験」 事業

楽しい工作 みんなで作ろう!

日時：7月27日(水) 15:00~16:00
 場所：下志津病院 療育部練習室

こま ぱく しょうりゃく
 あみあみ工作 コマ くち ロバク恐竜

子どもたちに、ワクワクした楽しい遊びのワークショップを開催します。また、得意なスタッフのみなさんにも一緒に楽しんでいただき、楽しいコミュニケーションを通して子ども達を癒してあげたいと思います。

主催：国立青少年教育振興機構 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
 〒260-0031 千葉県中央区新千葉 2-7-16 サンコート新千葉 102号
 TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp
 URL: http://chiba.gekijou.org/

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会

長期入院している子どもや児童福祉施設にいる子どもたちが、参加型で「楽しくあそび・体験すること」を目的としています。子どもの成長発達にとって、仲間といっしょに楽しく「あそび」ことやワクワクする「体験」が必要不可欠です。この事業では病院や施設向けにプログラム化した工作や音楽、遊び等のワークショップを届け、付き添う保護者や職員も一緒に体験します。

国立青少年教育振興機構
 「子どもゆめ基金助成活動」

千葉大学医学部附属病院のみなさんへ
 「長期入院や福祉施設の子もたちが笑顔になるあそびワークショップ体験」 事業

ワクワク工作 つくって あそぼう!

日時：8月19日(金) 10:00~11:50
 場所：小児病棟クリーンルーム フレイルーム
 小児病棟一般病棟フレイルーム

スポンジケーキ こま しょうりゃく
 ロバク恐竜

子どもたちに、ワクワクした楽しい遊びのワークショップを開催します。また、得意なスタッフのみなさんにも一緒に楽しんでいただき、楽しいコミュニケーションを通して子ども達を癒してあげたいと思います。

主催：国立青少年教育振興機構 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
 〒260-0031 千葉県中央区新千葉 2-7-16 サンコート新千葉 102号
 TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp
 URL: http://chiba.gekijou.org/

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会

国立青少年教育振興機構
 「子どもゆめ基金助成活動」

千葉県子ども病院のみなさんへ
 「長期入院や福祉施設の子もたちが笑顔になるあそびワークショップ体験」 事業

夏休み! みんなでわくわく工作!

8月29日(月) 13:30~2:30
 7階フレイルーム

子どもたちに、ワクワクした楽しい遊びのワークショップを開催します。また、得意なスタッフのみなさんにも一緒に楽しんでいただき、楽しいコミュニケーションを通して子ども達を癒してあげたいと思います。

主催：国立青少年教育振興機構 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
 〒260-0031 千葉県中央区新千葉 2-7-16 サンコート新千葉 102号
 TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp
 URL: http://chiba.gekijou.org/

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会

国立青少年教育振興機構
 「子どもゆめ基金助成活動」

千葉県子ども病院のみなさんへ
 「長期入院や福祉施設の子もたちが笑顔になるあそびワークショップ体験」 事業

夏休み! みんなでわくわく工作!

8月29日(月) 3:00~4:00
 6階フレイルーム

子どもたちに、ワクワクした楽しい遊びのワークショップを開催します。また、得意なスタッフのみなさんにも一緒に楽しんでいただき、楽しいコミュニケーションを通して子ども達を癒してあげたいと思います。

主催：国立青少年教育振興機構 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
 〒260-0031 千葉県中央区新千葉 2-7-16 サンコート新千葉 102号
 TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp
 URL: http://chiba.gekijou.org/

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会

国立青少年教育振興機構
 「子どもゆめ基金助成活動」

国立病院機構千葉東病院のみなさんへ
 「長期入院や福祉施設の子もたちが笑顔になるあそびワークショップ体験」 事業

手作り工房~わくわくドキドキ 作って遊ぼう!!

9月16日(金曜日) 15:15~16:15
 学習室・フレイルーム

子どもたちに、ワクワクした楽しい遊びのワークショップを開催します。また、得意なスタッフのみなさんにも一緒に楽しんでいただき、楽しいコミュニケーションを通して子ども達を癒してあげたいと思います。

主催：国立青少年教育振興機構 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
 〒260-0031 千葉県中央区新千葉 2-7-16 サンコート新千葉 102号
 TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp
 URL: http://chiba.gekijou.org/

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会

国立青少年教育振興機構
 「子どもゆめ基金助成活動」

千葉県子ども病院のみなさんへ
 「長期入院や福祉施設の子もたちが笑顔になるあそびワークショップ体験」 事業

「秋のおはなし会」

えんぴつ・かみしり
 「リバーシブルリポートレイトを作ろう」
 せりふ

場所：クリーンルームのろうが

10月4日(かよひ)
 10:00~

主催：国立青少年教育振興機構 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
 〒260-0031 千葉県中央区新千葉 2-7-16 サンコート新千葉 102号
 TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp
 URL: http://chiba.gekijou.org/

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会

国立青少年教育振興機構
 「子どもゆめ基金助成活動」

千葉県市川児童相談所のみなさんへ
 「長期入院や福祉施設の子もたちが笑顔になるあそびワークショップ体験」 事業

表現ワークショップ コミュニケーションあそび

2016年10月19日(水)
 9:30~2F 講堂
 指導者：大瀧弘幸 岡本圭

大瀧弘幸プロフィール
 1965年、東京都大田区に生まれる。幼少時に音楽に興味を持ち、中学校からピアノを始める。その後、音楽の道に進み、音楽療法士として活動。現在は、児童相談所や福祉施設などで、子どもたちと音楽を通してコミュニケーションを図る活動を行っている。

主催：国立青少年教育振興機構 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
 〒260-0031 千葉県中央区新千葉 2-7-16 サンコート新千葉 102号
 TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp
 URL: http://chiba.gekijou.org/

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会

国立青少年教育振興機構
 「子どもゆめ基金助成活動」

千葉県柏児童相談所のみなさんへ
 「長期入院や福祉施設の子もたちが笑顔になるあそびワークショップ体験」 事業

表現ワークショップ コミュニケーションあそび

2016年10月20日(木) 9:30 1F 食堂
 指導者：大瀧弘幸 大森靖枝

大瀧弘幸プロフィール
 1965年、東京都大田区に生まれる。幼少時に音楽に興味を持ち、中学校からピアノを始める。その後、音楽の道に進み、音楽療法士として活動。現在は、児童相談所や福祉施設などで、子どもたちと音楽を通してコミュニケーションを図る活動を行っている。

主催：国立青少年教育振興機構 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
 〒260-0031 千葉県中央区新千葉 2-7-16 サンコート新千葉 102号
 TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp
 URL: http://chiba.gekijou.org/

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会

国立青少年教育振興機構
 「子どもゆめ基金助成活動」

千葉県中央児童相談所のみなさんへ
 「長期入院や福祉施設の子もたちが笑顔になるあそびワークショップ体験」 事業

見たこともない生き物をつくろう

2016年10月25日(火)
 10:00~ 集団治療室
 指導者：永野つみさん

見たこともない生き物をつくろう
 見たこともない生き物をつくろう
 見たこともない生き物をつくろう

主催：国立青少年教育振興機構 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
 〒260-0031 千葉県中央区新千葉 2-7-16 サンコート新千葉 102号
 TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp
 URL: http://chiba.gekijou.org/

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会

国立青少年教育振興機構
 「子どもゆめ基金助成活動」

千葉市児童相談所のみなさんへ
 「長期入院や福祉施設の子もたちが笑顔になるあそびワークショップ体験」 事業

見たこともない生き物をつくろう

2016年10月25日(火)
 13:20~ 2Fスポーツひろば
 指導者：永野つみさん

見たこともない生き物をつくろう
 見たこともない生き物をつくろう
 見たこともない生き物をつくろう

主催：国立青少年教育振興機構 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
 〒260-0031 千葉県中央区新千葉 2-7-16 サンコート新千葉 102号
 TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp
 URL: http://chiba.gekijou.org/

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会

主催：特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
 〒260-0031 千葉県中央区新千葉 2-7-16 サンコート新千葉 102号
 TEL：043-301-7262 FAX：043-301-7263
 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp URL http://chiba.gekijou.org/

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会

実施病院名： 独立行政法人国立病院機構 下志津病院

ワークプログラム名：「楽しい工作 みんなで作ろう」

日時：2016年7月27日(水) 15:00~16:00
場所：療育訓練室
参加者 13人
(子ども 11人 病院関係者 2人)
指導者：(能勢宏子 加川きみ子 北野美子 梶原留理子)

ワークショップの内容

あみあみ工作、口の開閉がおもしろいロパク恐竜、回るときれいな紙コップのコマ



自分の作りたいものを決めると、材料が置いてあるテーブルへ移動し、早速、取りかかった。ロパク恐竜は男の子が「動きがおもしろい。」と熱心に取り組み、2本3本と作った。恐竜の目が片側二個ずつ付いていたり、口の中を派手にしたりと、発想が斬新。金色の折り紙をすべて使った「レアもの」恐竜なども出来た。あみあみ工作は、最初に模様を決めて作り始めたが、ねこ、ひまわり、理想の一家、りんご、豆腐、縞柄など、個性豊か。針をシートに刺しながらおしゃべりや、鼻歌も口ずさみ、楽しそうだった。子ども達の仲の良さが伝わってきた。針を使う事が嬉しそうだったが、時間切れ。「あと少しだったのになあ」と言う子もいたので、後で完成出来るように、必要な毛糸を渡した。3種類全部作った子は満足そう。保育士と一緒に一生懸命作った子が、「看護婦さんに見せたら、驚くだろうな。」と言った。



子どもの声

- ・初めはうまくいかなかったが、やるにつれてうまくなってきた。最後は一家の家ができた。
- ・たのしかった。じょうずにできた。お部屋にかざる。
- ・楽しく工作出来て楽しかった。また、工作をしたい。
- ・思っていたよりも、かんたんにできて、作ったあとでも遊べるのですごく楽しかった。

学校関係者 病院関係者からの声

- ・子ども達が、普段見られない位熱中して、自分の作りたいものを夢中になって作り上げていて良い姿だった。
- ・時間内に終わらない子どもは病棟へ戻ってから黙々とやっていた。刺しゅうは病棟でもやりたいと希望する子どもがいた。
- ・楽しい時間を過ごせたことが成果である。

実施病院名：千葉大学医学部附属病院

ワークプログラム名：「ワクワク工作 作ってあそぼう」

日時：2016年8月19日(金)
①9:35~10:45 ②10:45~11:50
場所：①クリーンルーム ②プレイルーム
参加者 28人
(子ども 9人 保護者 10人 病院関係者 9人)
指導者：(能勢宏子 加川きみ子 北野美子 梶原留理子)

ワークショップの内容

- ・紙コップコマ
- ・ロパク恐竜
- ・スポンジケーキ



何が始まるのかな?という表情だったが、作りだしたら楽しそうに材料を選び、気に入った作品をつくりあげて「やったー!」という満足した達成感が感じられる笑顔になった。その姿を見ている保護者もうれしそうに「きれいなね」「すごいね」と声をかけて子どもを応援していた。医師と保育士が出来上がりを見て拍手をしてほめるととても



うれしそうだった。人見知りをしていた子も大好きな先生が来たら、ニコニコ顔になってテーブルの方に向き直り、ケーキのトッピングをボンドで一つ付けるたびに、パチパチと拍手をしてうれしそうだった。乳児を膝に抱いて夢中で作っていたお母さんは出来上りを保育士に見せて、説明をしながら一緒に喜んでいて。お母さんがうれしそうにしている様子を見て、子どもも安心してその場にいられたあたたかい雰囲気があった。みんな出来上がった作品を大切に持ち帰った。

保護者からの声

- ・久しぶりに外からいらした方とお話したり、楽しい時間をいただいて本当にありがたいあたたかい気持ちになった。
- ・子どももたいへんうれしく、すばらしい時間を過ごすことができた。自分で考えて何事か成し遂げる経験は貴重なことと思う。
- ・親も夢中になるくらいとても楽しい時間だった。

子どもの声

- ・楽しかった。
- ・出来上がった恐竜を両手に持って、「パパと遊ぶんだー」と満足した表情を見せた。



病院関係者からの声

- ・見本を見て興味を持ち、色とりどりの折り紙や小物など、普段は手にすることのないような材料に触れ意欲が高まり、気持ちが前向きになっていた。また、制作に集中することで治療や不穏な感情から解放され、リラックスした時間を得ることができたと思う。

実施病院名： 千葉県こども病院

ワークショップ名：「夏休み!みんなでわくわく工作」

日時：2016年8月29日(月)

①13:30~14:30 ②15:00~16:00

場所：①7F プレイルーム ② 6F 西プレイルーム

参加者 30人

(子ども15人 保護者5人 病院関係者10人)

指導者：(長谷川詠香 堀米良子 大越舞美 篠藤晶子)

ワークショップの内容

- ・プリンカップゴマ、CD ゴマ等
- ・スポンジのケーキづくり
- ・天然石やビーズのキーホルダー
- ・パネルシアター「すてきな帽子屋さん」



7Fは、廊下にもいっぱい集まった。パネルシアターは、パジャマ姿の女の子が首をかきげながら笑っていた。2歳くらいの男の子はママに抱かれて見ていて、ほっぺたをたたきながら拍手をしていた。何をやるんだろうと思って集まったみんなが笑顔になり、和やかな雰囲気になった。男の子たちが、キーホルダーを作り出した。左手にギブスがある男の子も右手だけで真剣な表情でビーズを糸に通し、根気よく頑張った。6Fは、小さな子がお母さんの膝に座ってビーズを糸に通すと「できたー!」という声を出して笑顔になった。

病院関係者からの声

- ・1時間ものあいだ、子どもが集中力を途切れずに楽しんでたのが驚きだった。母親もキーホルダーづくりに夢中になって微笑ましかった。
- ・子ども、母親が楽しめたことがよかった。参加できなかった乳児が、その場の雰囲気を感じ取り楽しそうに喃語を発し、長時間機嫌よく過ごせていた。

子どもの声

- ・自分だけのオリジナル作品ができたのでうれしかった。
- ・あいちゃんがつくったケーキをつくった。ケーキはみどりとピンクでおもしろい。みどりはメロンケーキ、ピンクはいちごケーキみたい。
- ・うれしかったよ。

保護者からの声

- ・年中でも簡単にできるものでよかった。キーホルダーとケーキはママにあげると言ってくれた。
- ・子どもも新しい事だったので気分転換にもなり、良かった。



実施病院名： 国立病院機構千葉東病院

ワークショップ名：「手作り工房～わくわくドキドキ作って遊ぼう!!」

日時：2016年9月16日(金) 15:15~16:15

場所：プレイルーム

参加者 18人

(子ども8人 保護者4人 病院関係者6人)

指導者：(濱美幸 波多陽子 渡慶次康子 五十嵐豊子)

ワークショップの内容

- ・クイズの紙芝居
- ・スポンジケーキのケーキ屋さん
- ・ロケット的当てやさん
- ・びゅんびゅんこまやさん



男の子たちは的当てに夢中になり、たくさんおしゃべりしながら遊び、当たると「よっしゃー!」と声を上げ難度をあげたり飛ばし方を工夫していた。的当てロケットの発射台やびゅんびゅんこまをととても丁寧に色付けし、もっと挑戦したいと、白いこまを数枚持ち帰った。はじめゲームをやりたいと泣いていた子も「楽しかったー」と言った。

子どもの声

- ・たのしかった。またやってね。
- ・むちゅうになりすぎてケーキ6こも作っちゃった。すごく身近なものでこんなにかわいいものができるんだなあって思った。

緊張気味になっていた子どもたちが、導入のクイズの紙芝居で身を乗り出して答えて和やかになった。12歳の女の子がスポンジケーキをたくさん作り、モールでリボンの作り方をみんなに教えていた。4才の女の子もじっくりと2個作り満足顔。男の子がすてきなケーキをひょいと作り「うわーっ、女子力が高い!」と女の子や保育士にほめられ、照れながらどんどん作った。彼のびゅんびゅんこまの配色もすてき。

保護者からの声

- ・やんちゃなのでベッドで過ごすのは大変、遊べてうれしい。
- ・元気に遊べる姿が見られてよかった。子ども同士の交流もできてとても良かった。気分転換のイベントだった。
- ・手作りでいろいろな事が出来るのだと知った。今後も手作りの遊びを考えてみたい。

病院関係者からの声

- ・時々このように集中して遊ぶと生活にメリハリができる。

実施病院名：成田赤十字病院

ワークプログラム名：「秋のお話し会」

日時：2016年10月4日（火）10：00～11：30

場所：クリーンルーム廊下

参加者 21人

（子ども9人 保護者6人 病院関係者6人）

指導者：（飯野真子 広瀬節子 松本祐子 古賀恵美子）

ワークショップの内容

・手遊び・しりとり絵本・大型絵本「つきよのくじら」・紙芝居「注文の多い料理店」・仕掛け工作「不思議な部屋」・制作「リバーシブルリボントレイ」



子どもの声

- ・紙芝居が楽しかった。
- ・小物入れ かわいかった～♡
- ・手遊びがなつかしかった。くじらの絵本がかわいかった。小物入れと、動物の手品を作るのがたのしかった。
- ・箱を作るのが楽しかった！！
- ・楽しかった。工作も上手にできた。また来てね。

紙芝居の1枚が無いというハプニングも、指導者のアドリブで笑いが起き、一気に和やかな雰囲気が広がった。お話をよく聞いていた。工作はやりたい方を選択して取り組んだ。リバーシブルリボントレイが人気で布やリボンを手にとってのぞき込み、材料を選び、柄や色合わせを迷いながら楽しんでた。子ども同士や親子と一緒に作ったり、教えあったりと会話が弾んだ。院内学習の先生や医師も、子ども達に声をかけ作り方を聞いていた。看護学生が病室にいる子どもたちのために作って届けた。仕掛け工作の絵に一生懸命に色を塗ったりシールを選んで貼って家族にもあげたいと2つ目を作った子も何人かいた。中学生は「仕掛け

保護者からの声

- ・2才になる娘も小物入れ作り楽しかったみたいで部屋に戻ってから、しばらく離さないで遊んでいた。
- ・生後3ヶ月の為、参加できなかったが、いつも静かな病棟が笑い声にあふれていた。「リバーシブルリボントレイ」をいただきうれしかった。簡単でかわいいので自宅に戻ったら他の2人の娘にも教えてあげたい。限られた空間でしか毎日生活できない付き添いの親にとってもイベントの様で楽しめた。



病院関係者からの声

- ・読み聞かせはみんな真剣に聞き入っていた。工作は、年齢や興味に合ったものでとても楽しんでいた。簡単できれいで実用的なものが作れ、気分転換ができたと思う。今後とも継続的に活動していただけたら良いと思う。
- ・長期入院の子ども達への新しい刺激となったと思う。



実施施設名：千葉県市川児童相談所

ワークプログラム名：「表現ワークショップコミュニケーションあそび」

日時：2016年10月19日（水）

①9：30～10：30 ②10：30～11：30

場所：2F 講堂

参加者 28人

（子ども24人 施設関係者4人）

指導者：（大潤弘幸 岡本圭（人形劇団風の子） 綿貫のばら 棚田純子）

ワークショップの内容

①（幼児～小3）座るポーズ⇒歩こう歩こう♪の歌でいろいろポーズ⇒色オニ⇒トントンパ⇒震源地はどこ？⇒かくれんぼ⇒だるまさんがころんだ ②（小5～中学）たけのこニョッキ⇒バンバンパン⇒ジェスチャー⇒伝言ゲーム⇒協力しないお絵かき



「だるまさんがころんだ」では3歳児が積極的に動き回り、ひたいに汗して目がキラキラして良く笑っていた。小学生の子が幼児の手をつないで参加した子もいた。見つからないように走る子、早くつかまりたい子、見つかりたい子とそれぞれに楽しんでいた。「かくれんぼ」では、窓の枠の小さな隙間に入り、本気になって隠れていた。すっかり大潤さんに安心していた。大潤さんが「いやいや星人」と名付けた小学生の男子たち。まずは「いやだ」と言う。遊びを重ねていくうちにそんな裏腹な気持ちが吹っ飛び、楽しそうだった。中学生は少し緊張気味に入ってきた。女子は恥ずかしがりながらも笑顔で参加し楽しんでいた。少し遅れて一人で体育館に入ってきた中学生。先に来ていた子どもたちから、「ここに座ったら」と声をかけられ柔らかい顔になってにこやかに遊んでいた。

子どもの声

- ・だるまさんとかくれんぼたのしかった。またやりたい。
- ・今日はたのしい日だった。
- ・竹の子ニョッキが楽しかった。バンバン打つのも楽しかった。
- ・○×△でカオをかく時も、チームワークがあったと思った。
- ・おおま君が「じゅう」であそぶゲームをやるところがおもしろかった。
- ・やった遊びを今も皆でやっている。
- ・久々に男女で遊べてよかった!! Enjoyした。



施設関係者からの声

- ・外まで子どもの声が聞こえてきた。
- ・子どもたちに交じって遊んで楽しかった。
- ・退出の時に大潤さんが「またワークに来ます。修行の目的で。」と言ってくれたので、ぜひきてくれるとうれしい。



実施施設名：千葉県柏児童相談所

ワークプログラム名：「表現ワークショップコミュニケーションあそび」

日時：2016年10月20日（木）
①9:30～10:30 ②10:40～11:40

場所：食堂

参加者 28人

（子ども22人 施設関係者6人）

指導者：（大潤弘幸 大森靖枝（人形劇団風の子）
宇野京子 岡田泰子）

ワークショップの内容

①（幼児～小3）座るポーズ⇒歩こう歩こう♪
の歌でいろいろポーズ⇒色オニ⇒トントンパ
⇒震源地はどこ？⇒かくれんぼ⇒だるまさん
がころんだ ②（小5～中学）たけのこニョッ
キッキ⇒バンバンバン⇒ジェスチャー⇒伝言
ゲーム⇒協力しないお絵かき



小さい子どもたちは、遊ぶ気満々で入室。大潤さんが「今日は遊びます！」と言うと、うれしそうに飛び上がった。ルールがよくわからなくても自分なりに表現し自由なあそび心が引き出されて笑顔と歓声があふれた。「もっと遊びたい！」に答えて「だるまさんがころんだ」をした。大潤さんが子どもの名前を呼びながら「おもしろいね～」「〇〇はこんなこと言ったよ！したよ！」と認めると、ちょっと誇らしげに嬉しそう。高学年の回は、静かに入室。大潤さんが「えー！そんなことするの？ということもあるかもしれない」と言ったが、柔らかな表情で始まった。あそびは、輪になって相手の目線を感じ合う、間をとるなど五感を使うもの、ジェスチャーで伝言など、コミュニケーション教育が入ったプログラムだった。



子どもの声

- ・かくれんぼで、なにかにばけたことがおもしろかった。
- ・だるまさんがころんだがたのしかった。またきてね。
- ・一番楽しかったのは、バーンというゲーム、スピードがためされるゲームで、僕はチャンピオンになった。
- ・遊びやゲームのルールややり方がわからなくてとまどっていたら、いろいろ教えてくれてとても嬉しかった。
- ・たけのこによききはさいしょむずかしかったけど、どんだんたのしくなった。バンバンバンはドキドキした。

施設関係者からの声

- ・みんなの表情がとても明るく、大潤さんが話すときは何が始まるのか、ワクワクしているまっすぐな目、本当に楽しかったようだ。次の日、幼児たちと遊んだ話をして絵を書いた。
- ・色々な発見と勉強にもなった。子ども達の注意を引きつける話し方や、遊びの展開は、もっと深く学ぶ機会がほしいと感じた。あまり笑わない子の笑顔も見られ、私もうれしい気持ちになった。
- ・多くのレクを教えてもらったので、活用させていただきたい。バンバンバンは、子どもたちにとってインパクトのあるものだった。笑顔いっぱいの子どもたちをみてうれしいひとときだった。

実施施設名：千葉県中央児童相談所

ワークプログラム名：「見たこともない生き物をつくろう」

日時：2016年10月25日（金）10:00～11:10

場所：食堂

参加者 30人

（子ども25人 施設関係者5人）

指導者：（永野むつみ 大澤直（人形劇団ひぼぼたあむ）
椎名好子 鈴木佳子）

ワークショップの内容

紙切をして3分間人形劇⇒「見たこともない生き物」を自由に好きなものを全部使って作ってみよう⇒簡単な感想や作品を披露



当日の様子

食堂での実施はアットホームな感じがあり、どこからでも材料が取れるよう工夫をして配置した。「好きなだけ、好きなように使っていいよ！」というこのワークの一番大事なメッセージが、子どもたちを喜ばせ、目が輝く夢のような世界（普段では全員同じで限られた材料）であったようだ。紙や封筒・シールの色や種類の豊富さはもちろん、道具の豊かさにおどろいていた。シュレッダーが特に人気。ピンキングばさみや、型抜き道具を試してみたいと思う子どもが多く、力の入れ方などコツを掴むまで苦戦していた子もいるが、上手に使っていた。自由に発想して想像して思い思いにつくる体験は、最初はとまどっていたが、余りのおもしろさにどんどん集中し時間が足りないほどだった。

子どもの声

- ・物を作ったりするのが苦手なので、自分にとって貴重な体験になったと思います。今日のことを生かしてみたいです。
- ・最初つまらないと思っていたけどやっているうちにとても楽しくなってしまうと、時間がたつのがあっというまでした。
- ・保護所ではできない体験ができた。楽しかったです。

施設関係者の声

- ・こんな豊かな材料で工作をしたことがない。うれしい！ 素晴らしい！
- ・苦手意識が強い子供たちが多く、自分で工夫する、創作する、イメージする等、自信のない子が多いので、集中して自分の作品を作っている姿はとてもうれしかったです。



指導者からの声

外からの刺激、日常と違う文化・人が子どもたちに良い影響がある。紙やシールや文房具を、好きなだけ、好きなように使う自由度の高いワークは、子どもたちの気持ちを安心させる。大人は指示をせず、助言を控え、自分の思うがままに作品作りができるように、さりげなくいることが大事です。

実施施設名：千葉市児童相談所

ワークプログラム名：「見たこともない生き物をつくろう」

日時：2016年10月25日（金）13：20～14：40

場所：スポーツひろば

参加者 33人

（子ども27人 施設関係者6人）

指導者：（永野むつみ 大澤直（人形劇団ひぼぼたあむ）
椎名好子 鈴木佳子）

ワークショップの内容

紙切をして3分間人形劇⇒「見たこともない生き物」を自由に好きなものを全部使って作ってみよう⇒簡単な感想や作品を披露



会場に入るなり「わあ！」という声、材料が並べられ明るく華やい会場に驚いた。遠巻きに座った子どももいたが、永野さんのよびかけで、だんだんと真ん中に集まった。「好きなだけ好きなように全部の材料を使っていいよ！」隣や年上の子を見ながら、夢中に作った。こだわりがあり、おしゃれな色使いがクリエイティブでセンス抜群。道具の使い方に悪戦苦闘の様子も。「満足した？」「はい！満足した」と返事。作品披露で、他の子の作品にも惜しみなく拍手が贈れたのは、自分も満足したからだと思う。気持ちがほぐれて遊べたことで、やりきった満足感を持った子が多く、「やった感」を共有し、心や気持ちが伝わりあった時間だった。

子どもの声

- ・作っていくうちにどんどんアイデアがうかんでいき、すごく楽しく、自由に作れることがなにより楽しかった。
- ・自分なりに良くできたと思った。
- ・紙封筒で何かを作れるなど全く知らなかった。何を作ろうか迷っているんな紙などを切って色々作って失敗もしたけれどとても楽しかった。
- ・2個も作れたのでよかった。最後に感想を言うことになって恥ずかしかった。

施設関係者からの声

- ・個性豊かにそれぞれの作品が出来上がり楽しそうだった。笑顔もたくさんあり、工夫のアイデアを出し合っている姿は普段見ることができない姿なので、子どもたちの良さを再発見した。
- ・作品を発表で、照れくさそうに作った物を見せ、それでも拍手を受けるとほっとしたような、嬉しいような表情に変わっていた。終了後も、しばらくは作品を見せ合って盛り上がり、話に花が咲いていた。
- ・自由に道具を使い、自由に具財を使える。何を作ろうともほめることができるし、ほめられることができる。ストレスの多い所内で発散できたことと思う。



【コーディネーター】 五十嵐豊子 市川淑江 宇野京子 大塚るい 大森智恵子 岡田泰子 買場都明 加藤香都代 笠原直子 桑原信子 椎名好子 塩沢千秋 鈴木佳子 滝口淳子 多田優子 渡慶次康子 中村雪江 渡邊尚美 綿貫のぼら

この事業実施にあたり 子ども劇場千葉県センターが大切にしていること

具体化にあたっては、当団体が作成した病院や施設での安心安全に留意した「ガイドライン」に添って、綿密な打ち合わせを行いました。「ガイドライン」の基本的な考え方は、子ども権利条約の精神にのっとり、チルドレンファースト（Children First）、子どもたちの幸せと快適な生活を守ることを最優先していることです。指導者、コーディネーター、スタッフはどの会場においても、次のような「基本的視点」が活かされるワークショップになるように努めました。

ガイドラインの基本的点

- ・子どもの病状の悪化につながらない限り、子どもの自己決定を最優先します。
- ・一人一人の子どもが達成感や満足感を得られるよう、可能な限り個々の子どもの気持ちや各自のペースに寄り添います。
- ・子どもたちのプライドを尊重し、あらゆる表現を認め、受け止めます。
- ・子どもの病状を理解し、本人が楽しめるよう望む限りの手助けを行います。そのために、可能な限り子どもの意見や意思を確認するようにします。
- ・気持ちが安らぎ笑顔がうまれる遊びや、舞台芸術を心地よく体験できるよう、子どもの言葉を大切に聴き、表情を読み取り、共感する姿勢を持ちます。



1. 目的

長期入院している子どもたちは治療優先で、友達と触れ合ったり遊んだりすることが制限され、仕方がないとあきらめたり我慢を強いられている。また、児童相談所や乳児院で暮らす子どもたちは、日常生活の中に遊びや体験が不足している。子どもは仲間といっしょに楽しく「あそぶ」ことが必要であり、病院や施設向けにプログラム化した工作や音楽、遊び等のワークショップを届け、付き添う保護者や職員も一緒に体験する。

2. 実績

①ワークショップ 5病院 4施設

実施に際しては、事前に2回コーディネーターなどが5病院と4福祉施設を訪問し、担当者と直接顔を合わせて意向やニーズを把握し、地域の人材を活用して子どもたちが楽しい時間を過ごすことができるワークショップを提供するよう努めました。

病院名	実施日場所時間	内容・指導者 4人	参加人数 229人 (子ども150人 大人79人)
国立病院機構下志津病院	7月27日(水) 15:00~16:00 療育訓練室	「楽しい工作 みんなで作ろう！」	総数 13人 子ども11人(小学生4人 中学生7人) 病院関係者2人(保育士2人)
千葉大学医学部附属病院	8月19日 ①9:35~10:45 クリーンルーム ②10:45~11:50 小児一般プレイルーム	「ワクワク工作 作ってあそぼう」	総数 28人 ①子ども2人(幼児1人 中学生1人) 保護者3人 病院関係者5人(医師3人 保育士2人) ②子ども5人(幼児3人 小学生2人) 保護者5人 病院関係者2人(保育士2人) ③病室訪問子ども2人(幼児2人) 保護者2人 病院関係者2人
千葉県こども病院	8月29日(月) ①7F13:30~14:30 ②6F西 15:30~16:00	「夏休み! みんなでわくわく工作」	総数 30人 ①子ども9人(幼児2人 小学生4人 中学生3人) 保護者3人 病院関係者7人(看護師4人 保育士1人、実習生2人) ②子ども6人(乳児2人 幼児2人 小学生2人) 保護者2人 病院関係者3人(看護師2人 保育士1人)
国立病院機構千葉東病院	9月16日(金) プレイルーム・学習室 15:15~16:15	「手作り工房~わくわくドキドキ作って遊ぼう!!」	総数 18人 子ども8人(幼児3人 小学生5人) 保護者4人 病院関係者6人(医師2人 看護師1人 保育士3人)
成田赤十字病院	10月4日(火) 10:00~11:30 クリーンルーム廊下	「秋のお話し会」	総数 21人 子ども9人(乳児1人 幼児1人 小学生2人 中学生5人) 保護者6人 病院関係者6人(看護師2人 看護助手兼保育士1人 学校関係者2人 看護学生1人)
千葉県市川児童相談所	10月19日(水) 2F講堂 ①9:30~10:30 ②10:45~11:30	「表現ワークショップ コミュニケーションあそび」	総数 28人 子ども24人(幼児2人 小学生12人 中学生10人) 施設関係者4人(保育士1人 職員1人 教師2人)
千葉県柏児童相談所	10月20日(木) 食堂 ①9:30~10:30 ②10:40~11:40	「表現ワークショップ コミュニケーションあそび」	総数 28人 子ども22人(幼児2人 小学生12人 中学生8人) 施設関係者6人(教師6人)
千葉県中央児童相談所	10月25日(火) 10:00~11:10 食堂	「見たことのない生き物をつくろう」	総数 30人 子ども25人(幼児5人 小学生12人 中学生4人 他1人) 施設関係者5人(保育士・児童指導員5人)
千葉市児童相談所	10月25日(火) 13:20~14:40 スポーツひろば	「見たことのない生き物をつくろう」	総数 33人 子ども27人(小学生13人 中学生9人 高校生5人) 施設関係者6人(職員5人 主査1人)

②コーディネーター打合せ会議 1 回

開催日時・場所：2016年5月16日(月) 10:00~12:00 プロミス千葉会議室 参加者:13人
内容: 事業実施に当たり、目的やコーディネーターの役割、開始から完了までの資料の作成の説明し、理解を得た。ガイドラインと照らし合わせて、昨年の実施から課題を出し合い、ワークショップの研究交流をしました。病院や施設で生活する子どもたちが、外の世界に希望を持てるように日常とは違う人との出会いを大切にしたいワクワクした時間をつくるために、会場の雰囲気づくりや材料に工夫をし、子どもたちが達成感や満足感等自分らしさを出せるワークショップにすることを確認しました。

③研修会の実施

開催日時・場所：2016年8月9日(火) 13:15~15:30 千葉県こども病院会議室 参加者:17人
講師：高崎菜穂子さん(チャイルドライフスペシャリストCLS)

内容: 「こどもと遊び」をテーマにお話を聞きました。

発達心理学や教育学が基礎でこどもの発達やストレス対処に関する専門家であるCLSは、日本では資格が取れないのでアメリカで取得し、現在、日本国内29病院に40名しかいません。入院中のこどもたちの不安な心を癒したり、こどもの発達を促すために遊びを通して、こどもたちが、安心して遊びに没頭できる環境づくりや、こどもが主体で評価しない、「遊びきる」を見守っているということでした。コーディネーターや指導者として子どもたちに向き合う時の基本姿勢を改めて確認しました。

3. 成果

児童相談所等を昨年より2か所増やして実施しました。病院や児童福祉施設のニーズに添った工夫した内容と丁寧な準備をして臨みました。入院中ではあっても満面の笑顔の瞬間と集中して楽しむ子どもの姿があり、かけがえのない時間となりました。また、児相の子どもたちは笑顔ではしゃいで遊び、自由に思い思いの作品をつくり、満足感や達成感ほぼ100%。ためこんでいるストレスを一気に発散でき、「自由に仲間とあそぶ体験」が困難な中であっても必要だとの認識を強くしました。実施した病院・児童福祉施設ともに評価が高く、こうした場を提供し、継続し続ける社会的意義があります。

この事業は、コーディネーターの存在が不可欠です。交流や研修会、実績を積み重ねて、昨年よりも力を蓄えしっかりした「子ども観」を持ち、個別の状況に添って柔軟な対応や調整をすることができました。指導者と共に、プログラムの内容及び進行を創り、指導者も子どもたちにとって最前の内容にしようという努力と工夫を重ね、当日に臨みました。こうした子どもの文化に関するコーディネーターや指導者の人的基盤がさらに強化されました。



「長期入院や福祉施設の子どもたちが笑顔になるあそびワークショップ体験」 報告書

発行日：2016年11月25日(金)

発行者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

発行所：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉2-17-6 サンコート新千葉102号

TEL: 043-301-7262 FAX: 043-301-7263

メールアドレス: kidchiba@lily.ocn.ne.jp

この報告書は独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金助成活動」の助成によって作成しました
この報告書の内容を無断で引用・転載することはかたくお断りいたします